

コウノトリ



毎週月曜日更新

カタカタ通信

第183号

「巣台のリセット」

2025年6月30日

空（♂）と花（♀）はこの春の繁殖シーズンを終えましたが、飼育係には後片付けが残っています。来季に向けて巣台を改良するため、巣材を撤去しなければなりません。巣材がなくなれば、繁殖モードもすっかり落ち着きます。まだ寒いころの営巣（巣作り）から半年近く、気を張り続けた空と花を早く休ませたいという思いもありました。

花は6月上旬にはのんびりと過ごすようになりましたが、空はまだ繁殖モードが残っていたようです。6月下旬になり、それまで毎日熱心に巣台をチェックしていた空も、やっと巣へ乗らなくなってきました。そんな空の様子も観察しつつ、巣材の撤去に取り掛かりました。



巣も日に日に大きくなりました

巣に上がってみると、一番長い部分は端から端まで約290cmもありました。枝がしっかり組んであったので、2人がかりで90分ほどかけて片づけました。内巣と呼ばれる巣の真ん中の草の部分には、枝はあまり入れずに草がぎっしり重なっていました。外巣（周りの枝部分）には巣の中が見えないよう、太さも長さも違うたくさんの

枝が細かく組み上がっていました。まだ使えそうな枝は回収して、来季に備え紐で結んでまとめました。

巣材を片付け終え、池掃除や給餌の準備をしていると、突然、空が音もなく背中スレスレまで飛んできました。これまで小柄な飼育係へ向けて、クラタリングで威嚇しながら近づいてきたことはありましたが、無音威嚇は初めてでした。少しあらめなエサの催促だったのか、もしかしたら、巣を壊されたのが嫌だったのかもしれませんが、木製の巢台にはメンテナンスも必要です。

来季も立派な巣が作れるよう、今後は巢台を少しずつ手直ししていきます。今季は2羽が作った巣の位置が壁に近すぎていたので、次は少し遠ざけられるよう調整して作る予定です。遠ざけすぎて落ち着かず、産卵しなくなっても困るので、慎重に変えなくてははいけません。

どのようにできたかは、次回のお楽しみに。



巢台にもメンテナンスが待っています

天空の里 鴻巣市コウノトリ野生復帰センター

飼育担当：しみじい